

## 滋賀県がん診療連携協議会 議事結果報告書

会議名	令和7年度第2回滋賀県がん診療連携協議会 緩和ケア推進部会	
開催日時	令和7年11月6日(木) 17時30分～19時00分	
開催場所	Web開催(Zoomミーティング)	
出席者	(※敬称略) 滋賀県立総合病院 花木 宏治 滋賀医科大学医学部附属病院 醍醐 弥太郎 滋賀医科大学医学部附属病院 西川 誠人 大津赤十字病院 石戸谷 哲 大津赤十字病院 山本 茂子 滋賀県立総合病院 東出 千鶴 公立甲賀病院 岡垣 哲弥 公立甲賀病院 中田 雅子 市立長浜病院 田久保 康隆 市立長浜病院 宮崎 恵子 高島市民病院 高橋 有和 高島市民病院 天野 明美 市立大津市民病院 津田 真 市立大津市民病院 林 美保 淡海医療センター 堀 泰祐 済生会滋賀県病院 権 哲 近江八幡総合医療センター 木本 美由紀 長浜赤十字病院 丹後 泰久 東近江総合医療センター 坂野 祐司 ヴォーリズ記念病院 奥野 貴史 ヴォーリズ記念病院 谷川 弘子 岩本整形外科 岩本 貴志 滋賀県歯科医師会 石原 靖久 滋賀県薬剤師会 金澤 重幸 滋賀県看護協会 川口 宏斗 滋賀県歯科衛生士会 溝井 敬子 滋賀県がん患者団体連絡協議会 八木 政廣 滋賀県健康しが推進課 時田 幸世 滋賀県立総合病院 南 芽似  <b>【事務局】</b> 滋賀県立総合病院 岩田 里織	
欠席者 (※敬称略)	(※敬称略) 滋賀県立総合病院 富永 千鶴 彦根市立病院 秋宗 美紀 彦根市立病院 黒丸 尊治 滋賀県医師会 堀出 直樹 滋賀県がん患者団体連絡協議会 奥井 さよ子	
議事概要	<b>【審議・報告事項】</b> 1. 令和7年度 部会員名簿 第1回緩和ケア推進部会開催時から部会員の変更なし。  2. 各院の緩和ケア研修会の実施報告	

<第3回：滋賀県立総合病院>  
8月3日（日）開催。参加者22名（医師16名（院内医師16名、院外医師7名）、その他職種6名）。開業医の参加なし。

<第4回：淡海医療センター>  
8月9日（土）開催。参加者17名（医師12名、看護師3名、管理栄養士1名、理学療法士1名）。三連休中での開催であったことや、ファシリテーターマニュアルの完成度について次回の課題とする。

<第5回：市立大津市民病院>  
9月21日（日）開催。参加者17名（医師17名）。多職種の参加はなかったが、地域の医師の参加があった。

- 第6回：滋賀医科大学医学部附属病院は、開催日から日が経っていないため第3回緩和ケア推進部会で報告。
- 開業医の参加が少ないが、開業する前に受講している医師が増えてきたため、今後は開業医としての参加は少なくなるだろう。研修医時点での受講を促していく。
- 研修医は基本的な内容で時間がかかることが多いため、滋賀県立総合病院では「がん疼痛コントロールポケットマニュアル」を使用して講義をしたうえで、集合研修に移るようしている。

### 3. 世界ホスピス緩和ケアデー記念県民公開講座の実施報告

9月23日（火/祝）に甲南情報交流センター（忍の里プララ）にて開催。講師は看護師で僧侶の玉置妙憂氏。開催場所の関係で、集客に懸念があったが、計110名の参加となった。「自然死で看取る」という題名であったが、医療を否定するわけでもなく、幅広い話をされ開催後アンケートでも好評だった。

### 4. 滋賀県緩和ケアチーム研修会の実施報告

10月26日（日）に実施。滋賀医科大学医学部附属病院、彦根市立病院、市立長浜病院、大津赤十字病院、滋賀県立総合病院より計20名が参加。「地域連携」のためにPCTができるなどを企画・立案するという目的で行った。

- 企画運営は輪番制であるが、各施設の負担を鑑みて、今後は滋賀県立総合病院が主体となり企画運営していく。
- 滋賀県がん対策推進計画からは、拠点病院のスキル向上の必要性があり、それには緩和ケアチーム研修会の改革が必要で情報共有が不可欠。  
→PCT情報共有ファイルを作成する。各病院で変更があれば自主的に随時更新する。  
→今後のPCT参加対象施設は、拠点病院と参加希望の施設とする。

### 5. 看護師対象研修会（ELNEC-J研修会）中間報告

11月29日（土）、12月6日に実施予定。ZOOMを利用したハイブリッド形式で県内6施設にて開催。訪問看護ステーションを含めた計18施設から69名が参加予定。

来年度の開催日は、令和8年11月28日（土）、12月5日（土）、今年度と同様の開催形式や、各開催施設に対して事務局を通して協力依頼をする流れについて当部会で承認。

### 6. 情報共有について

- 済生会滋賀県病院 権先生より滋賀県における難治性疼痛に対する神経ブロックの連携の提案について
  - ・滋賀県やその周辺の神経ブロック実施施設は少なく、滋賀県の提案として、実施の有無に関わらず試験的に連携のシステムを構築してみるという取り組みがある。
  - ・済生会滋賀県病院ですぐに施行可能で、1回のみの施行、入院1泊2日であることで簡易

	<p>的で紹介元にすぐに転院できるのものとして、腹腔神経叢ブロック、フェノールサドルブロック、胸部神経根パルスまたは高周波熱凝固がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・連携の方法案の概要は、各病院が済生会滋賀県病院疼痛・緩和ケア科にメールで適応かの問い合わせの上（個人情報留意のため検討必要）、各病院が診療情報提供書をFAXし、済生会滋賀県病院の地域連携課を通じて適応について回答する。</li> <li>・費用はそれほど高額ではない。</li> <li>・連携のためには、神経ブロック施行前後には紹介元との協力体制や、緩和ケアの医師から各診療科の医師に啓蒙、自施設での施行有無に関わらず、滋賀県内の全病院が加わった連携として自施設、他施設どちらでも選択できるようにしておくことが必要。</li> <li>・診療科の医師に説明するための資料として権先生の資料を基に部会の名前で発行できるように準備していく。</li> </ul>
	<p><b>7. 滋賀県健康医療福祉部情報共有</b></p> <p>緩和ケアチーム研修会で出ていた課題と方策について、地域での多職種連携や社会資源の情報共有等、出ていた課題についての方策は、在宅医療・介護の切り口から地域、圏域の中で推進しているところ。滋賀県下の保健所に情報共有し、行政や地域の中の多職種で連携を深めていくことができればと考えている。</p>
そ の 他	<p><b>8. 滋賀県がん患者団体連絡協議会からの連絡事項</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・11月15日（土）第3回がん医療講演会開催。8つのテーマで医師と話し合う。</li> <li>・がん患者サロンで活躍するがんピアソーターの養成講座開催にあたり、令和8年1月10日まで参加者を募集している。</li> <li>・がん患者アンケート（3年に1回）を実施している。</li> <li>・患者にとって激痛は耐えがたい苦痛なので緩和する方策が拡がることは有り難いと思う。</li> </ul> <p style="text-align: right;">以上</p> <p>・次回会議は令和8年3月5日（木）同時刻、ZoomによるWeb開催とする予定。</p>

以上のとおり報告します。

令和 7年 11月 6日

滋賀県がん診療連携協議会 会長 様

緩和ケア推進部会 部会長 花木 宏治